

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓「自由と規律」のもと、人間尊重に徹した、真に国際社会に通用する「明るく、たくましく、心爽やかな人間」を育成する。

1. 夢・目標を主体的に見つけ、進路実現に向けて積極的に取り組む生徒を育てる。
2. 知的好奇心が旺盛であり、自ら考え学ぶ姿勢を持った生徒を育てる。
3. 集団の中での義務と責任を認識し、集団の一員として貢献する意欲のある生徒を育てる。
4. 他人の立場や周りの人の気持ちを考え、行動できる生徒を育てる。

2 中期的目標

1. 確かな学力の育成

(1) 「わかる授業、考える授業」を通じて生徒の主体性、積極性を育み、学力向上に取り組む。

ア 学校としての「生徒に育成したい資質・能力」、「めざすべき生徒像」について、全教員で共有し、実現への方法を明確化する。

イ 学力向上委員会を中心に相互授業観察、研究授業などの計画的実施、授業アンケートの効果的活用など、学力向上に組織的に取り組み、ICT機器を活用した効率的・効果的な授業についても研究を進める。

ウ 令和4年度の次期学習指導要領全面実施に向けて、その主旨を生かすと共に、生徒の希望進路実現に対応した特色ある教育課程を編成する。

学校教育自己診断（生徒）における授業満足度の肯定的回答（H29 58%、H30 57%、R01 58%）を毎年2ポイント引上げ、令和4年度には64%にする。

2. 夢と希望を持ち、進路実現に積極的に取り組む生徒の育成

(1) 生徒の希望する進路の実現に向けて、計画的な進路指導体制を確立する。

ア 3年間を通じた継続的かつ計画的に進路指導に取り組み、大学・短大、専門学校および職業などについてキャリア教育を行う。

イ 3年間を通じた計画的な講習の実施により、早期から進路実現に向けて努力させる。

進路未定率（H29 1%、H30 5%、R01 5%）を毎年0.5ポイント引き下げ、令和4年度には3.5%以下にする。

(2) 「総合的な探究（学習）の時間」やHR活動を通じ、人権教育、キャリア教育等を行うことにより、自らの在り方、生き方を考えられるようにする。

学校教育自己診断（生徒）における進路に関する情報提供の肯定的回答（H29 72%、H30 70%、R01 74%）を毎年2ポイント引上げ令和4年度には80%にする。

学校教育自己診断（生徒）における人権について学ぶ機会の肯定的回答（H29 79%、H30 77%、R01 79%）を毎年1ポイント引上げ令和4年度には82%にする。

(3) グローバル人材の育成

ア グローバル人材を育成するために、海外修学旅行を継続すると共に、授業や特別活動を通じて、グローバルな視点や姿勢を身につけさせる。

生徒向け修学旅行アンケートにおける満足度の肯定的な回答90%以上（H30 97%、R01 93%）を維持する。

3. 安全安心で魅力のある学校づくり

(1) 生徒の規範意識を醸成すると共に、個々の生徒への支援体制を強化する。

ア 朝の職員連絡会やSHRを通して、生徒の状況を把握、教員間で共有し、望ましい生活習慣、生活規範の確立に向けた指導を行う。

イ 教育相談体制を充実させるとともに、合理的配慮を充実させ、生徒や保護者そして教職員も安心して学校生活を送れる体制を作る。

ウ 互いの違いを認め合い、「ともに生きる」精神を育成し、学校に来るのが楽しいと感じる環境を作る。

1月末段階での遅刻（H29 4142件[年間]、H30 4,200件、R01 3,676件）を毎年100件ずつ減少させ、令和4年度には3300件以下にする。

学校教育自己診断（生徒）における「先生は悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的回答（H29 70%、H30 69%、R01 70%）を毎年1ポイント引上げ令和4年度には73%にする。

学校教育自己診断（生徒）における「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答（H29 69%、H30 73%、R01 76%）を毎年1ポイント引上げ令和4年度には79%にする。

(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己肯定感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。

ア クラブ、文化祭や体育大会などの生徒の自主的な活動を活性化させるために、仲間と協力して内容の充実をめざすよう教職員が支援する。

学校教育自己診断（生徒）における「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答（H29 66%、H30 66%、R01 63%）を毎年2ポイント引上げ令和4年度には69%にする。

学校教育自己診断（生徒）における「体育大会（祭）は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答（H29 49%、H30 50%、R01 49%）を毎年2ポイント引上げ令和4年度には55%にする。

(3) 生徒が安全に安心して学校生活を送ることができるよう保護者との連携および環境の整備を行う。

ア 保護者との連絡を密にし、生徒が安全・安心に学校生活を送られるようにする。

イ 「防犯及び防災計画」を点検し、天災や火災、侵入者などの危機管理体制を充実させる。

学校教育自己診断（職員）における「事故・事件等に迅速・適切に対応」（H29 61%、H30 78%、R01 82%）を毎年1ポイント引上げ令和4年度には85%にする。

4. 地域・保護者と連携した学校づくり

(1) 広報活動を活性化し、本校の取り組みを中学生や保護者、地域に発信する。

ア Webページおよびブログを定期的に更新し、本校の取り組みを地域・保護者に発信する。

イ 本校で実施する学校説明会をさらに充実させると共に、外部の学校説明会などにも積極的に参加する。

メール配信を教育支援クラウドサービスに置き換えることにより、登録者（H30 78%、R01 66%）の在籍者に対する割合は100%とする。

(2) 地域との連携に取り組む

ア KEYS（貝塚警察署との連携した活動）等のボランティア活動を継続発展させる。

イ 地域の学校等との連携を活発に行う。

(3) 保護者向け進路説明会の実施および保護者への進路情報の提供

ア 保護者向け進路説明会の内容を充実させ、保護者が参加しやすい説明会を企画、実施すると共に、進路情報を積極的に発信する。

学校教育自己診断（保護者）における進路に関しての情報提供（H29 56%、H30 56%、R01 55%）を毎年2ポイント引上げ令和4年度には61%にする。

5. 教職員の資質向上と意識改革

(1) 個々の教員が学校運営に参加する意識をもって業務にあたる。

ア 運営委員会を中心としたミドルアップダウン型組織とし、校内での情報共有、意思統一の経路を明確にして、組織目標の達成を行う。

イ ICT機器を効率的に活用し、さまざまなデータの共有・情報共有を行うと共に、事務作業等の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する。

(2) 校内での教職員研修を積極的に行うと共に、外部で実施される研修等の内容を校内で共有する。

ア 教職員の資質向上をめざした教員研修を計画的に実施する。

イ 校外での研修などにより、積極的に情報を収集するとともに校内での周知を行う。

(3) 働き方改革の取り組みを行い、職員が生徒と向き合う時間を増やす。

ア 働きやすい職場環境の整備につとめると共に、風通しがよく、働きがいのある組織作りを進める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)「わかる授業、考える授業」を通じた学力向上 ア「生徒に育成したい資質・能力」 「めざす授業」の実現に向けて イ 学力向上をめざした取り組み ウ 授業アンケートの効果的活用 エ ICT 機器を活用した授業の研究・実施 オ 自学自習の推進 カ 図書館の活用の推進 キ 特色ある教育課程の編成</p>	<p>(1) ア「生徒に育成したい資質・能力」 「めざすべき生徒像」を実現する方法について、全教職員で共有し、実践する。 イ 授業規律を高め、授業力向上の取組(研修、相互授業観察、研究授業など)を計画的に実施する。 ウ 授業アンケートを実施し、各教員が結果を分析し、「授業アンケート結果分析シート」を作成し、授業に改善に努める。 エ ICT 機器を活用した学力向上について研究を進め、ICT 機器を活用した研究授業を実施。プロジェクター、タブレット端末等を有効に活用する。 オ 授業を通じて教科・科目の学習への興味・関心を高め、自ら学ぶ姿勢を身につけさせる。 ・生徒の生活実態を把握し、授業以外の学習時間を確保し、授業に臨めるようにする。 ・自習室や教育支援クラウドサービスの活用。 カ 図書室でのPCを用いたクラウドサービスの活用なども取り入れ、授業での活用を推進するとともに、図書委員の活動を活性化し、生徒の読書活動を推進する。 キ 次期学習指導要領全面実施に向けて、その主旨の理解を図り、生徒の希望進路に対応した教育課程を編成する。</p>	<p>(1) ア 全教員で共有し、実現に向けた環境整備を行う。 イ 教員相互の授業観察を実施、年間延べ(R01 1月末 40回)150回以上。研究授業5回以上。 ウ 全教員が「授業アンケート結果分析シート」を作成。学校教育自己診断(生徒)の「授業が分かりやすい」の肯定的回答(R01 58%)60%以上 エ ICT 機器を活用する教員の割合(R01 89%)90%以上 オ 自主的に学習する習慣を高める。基礎学力調査(9月実施分)の1日あたりの学習時間1時間程度以上の割合(R01 1年39%、2年26%)1年40%以上、2年30%以上 カ 校内読書感想コンクールの継続実施。図書委員の活動を年間(R01 38回)20回以上実施。図書室の活用時間の増加。 キ 次期学習指導要領に沿った教育課程を編成する。</p>	
2 夢と希望を持つ生徒育成	<p>(1)生徒の希望する進路の実現 ア3年間を通して進路指導に取り組む イ 生徒情報の共有 ウ 計画的な講習の実施 (2)コミュニケーション能力の育成 ア 班活動や発表機会を増やす (3)グローバル人材の育成 ア 海外修学旅行の実施 イ グローバルな視点を身につける</p>	<p>(1) ア 3年間を見通した進路指導計画を作成し、生徒、保護者とも共有する。 イ 定期考査、基礎学力調査などの結果から生徒の学力推移を分析し、教育支援クラウドサービスと連携し、学年・教科・分掌間で共有し、進路指導に活かす。 ウ 進路目標達成に向け、教科、分掌及び分掌の連携を強化し、進学や就職のための説明会や講習等を計画・実施する。 (2) ア 各授業、HR、総合的な探究(学習)の時間、学校行事などを通じて、班活動の実施や生徒が発表する機会を増やす。 (3) ア 海外修学旅行における事前・事後を含めた活動を通じて、国際感覚を身につける イ 国際交流の機会を模索し、授業や特別活動を通じて、グローバルな視点や姿勢を身につけさせる。</p>	<p>(1) ア HR等を活用した学年全体での取組み(R01 1年7回2年19回3年8回)1・2年10回以上、3年5回以上実施 イ 学校教育自己診断(保護者)の「将来の進路や職業について適切な指導」の肯定的回答(R01 64%)65%以上。学校教育自己診断(生徒)の「進路に関する情報が十分提供されている」の肯定的回答(R01 74%)75%以上 ウ 進学講習は全体で170回以上を実施。教育支援クラウドサービスによる学習動画、WEBドリル等の活用を加えて、より個人の状況に合わせた指導を進める。(R01 217回[進学講習のみ]) (2) ア 学校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめたり、発表したりする授業がある」の肯定的回答(R01 57%)60%以上 (3) ア 修学旅行実施後の生徒アンケート満足度90%以上(R01 93%)を維持 イ 学校教育自己診断(生徒)の「授業や行事で国際理解について学ぶ機会がある」の肯定的回答(R01 55%)60%以上</p>	

<p>3 安全安心で魅力のある学校づくり</p>	<p>(1)生徒の規範意識の醸成と支援体制の強化 ア 職員室の効率的な活用による指導力向上 イ 登校指導等を通じて、望ましい生活習慣、生活規範の確立に向けた指導を行う。 ウ 教育相談・支援体制の充実 エ 互いの違いを認め合い、「共に生きる」精神を育成する。</p> <p>(2)特別活動を通じ、豊かな高校生活を実現させる ア 部活動入部率の向上と部活動の活性化 イ 学校行事の活性化</p> <p>(3)保護者との連携および環境の整備 ア 保護者との連携 イ 美化活動等の環境整備 ウ 防犯および防災対策の推進</p>	<p>(1) ア 職員室を効率的に活用し、日常的に生徒情報の共有を図ると共に、担任・副担、学年団などでの OJT を通じて、教員の指導力向上を図る。 イ 朝の登校指導や朝の SHR などを通じて、遅刻・服装・頭髪指導などの規律指導を行う。 ウ 相談室、SC、関係機関などの連携を強め、合理的配慮にそった個に応じた支援体制の充実を図る。 エ 人権教育の体系化を図り、生徒へ人権の大切さを学ばせる。 ・いじめ事象の発生・深刻化を防ぎ、いじめを許さない生徒を育成する。</p> <p>(2) ア 新入生対象の部活動紹介や体験入部を通じて、部活動入部率の向上と部活動の活性化を図る。 イ 遠足、体育大会、文化祭などの配置とともに内容について検討し、めざす生徒像の完成に資するものとする。</p> <p>(3) ア 日常的に家庭との連絡を密にし、保護者との連携により、生徒の指導や支援を行う。 イ 環境美化への意識を高める環境整備を行う。 ウ 「防犯及び防災計画」の内容を周知し、危機管理意識を向上する。</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断(職員)の「教員間での生徒に関する情報共有」の肯定的回答(R01 85%)90%以上 イ 朝の登校指導や昼休みの指導の継続実施。 年間述べ遅刻回数(R01 1月末 3,676回)3,550回以下 ウ 学校教育自己診断(生徒)の「悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的回答(R01 70%)70%以上。就学支援会議で具体的な配慮について検討する。 エ 学校教育自己診断(生徒)の「人権の大切さについて学ぶ機会」の肯定的回答(R01 79%)80%以上 学校教育自己診断(生徒)の「先生はいじめに真剣に対応」の肯定的回答(R01 71%)75%以上 (2) ア 1年生全員の体験入部を継続。部活動加入率(R01 50%)50%以上 イ 学校教育自己診断(生徒)の「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答(R01 63%)65%以上。「体育大会は楽しく行えるよう工夫されている」(R01 49%)50%以上。学校教育自己診断(生徒)の「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答(R01 76%)80%以上 (3) ア 学校教育自己診断(保護者)の「家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」の肯定的回答(R01 59%)60%以上 イ 学校教育自己診断(生徒)の「校舎内外の環境整備、美化」の肯定的回答(R01 41%)45%以上 ウ 生徒用備蓄の整備を継続。学校教育自己診断(職員)の「事故・事件に迅速・適切に対応」の肯定的回答(R01 82%)85%以上。緊急連絡方法の確立。</p>	
<p>4 地域・保護者と連携した学校づくり</p>	<p>(1)広報活動の活性化 ア 学校 Web ページ、ブログによる情報発信 イ 教育支援クラウドサービスによる情報発信 (2)地域との連携 ア ボランティア活動の継続発展 イ 地域の学校等との連携 (3)保護者への進路情報の提供 ア 保護者向け進路説明会の実施 イ 保護者への進路情報の積極的発信</p>	<p>(1) ア 広報委員会が中心となり、オープンスクール等を継続すると共に、学校 Web ページおよびブログの情報更新を活発に行うと共に、内容の充実を図る。 イ メール配信を教育支援クラウドサービスに置き換え、保護者への情報発信を行う。 (2) ア KEYS(貝塚警察署との連携)等ボランティアの継続実施および内容充実 イ 近隣の保育園での保育体験実習の継続実施 部活動等を通じて地域との連携を図る。 (3) ア 保護者向け進路説明会の内容を充実させ、保護者が参加しやすい説明会を企画する。 イ 進路だよりなどの配布とともに、教育支援クラウドサービスによる送信なども活用して、保護者に確実に情報が伝わるようにする。</p>	<p>(1) ア ブログの更新を積極的に行い年間180回以上の更新(R01 1月末 179回)を維持 Web ページのアクセス数 30,000 アクセス以上(R01 1月末 29,301 アクセス)を維持 イ 保護者懇談等を通じて、すべての保護者の登録を確認する。 (2) ア KEYS の活動を継続(R01 7回)。その他のボランティアを推進。 イ 保育体験実習を継続(R01 12回)。部活動等で中学校や地域との連携した活動(R01 中学校 21回 地域 69回)以上を維持。 (3) ア 1・2年と3年対象の説明会や大学見学会を実施。保護者の肯定的回答70%以上 イ 学校教育自己診断(保護者)の「進路に関しての情報提供」の肯定的回答(R01 55%)60%以上</p>	

<p>5 教職員の資質向上と意識改革</p>	<p>(1) 個々の教員が学校運営に参加する意識をもって業務に当たる。 ア 教員間での情報共有を行い、組織目標の達成を行う。 イ ICT 機器を活用し校務の効率化を図る</p> <p>(2) 教員研修実施、授業見学や外部実施研修への積極的参加 ア ニーズに合った教員研修の実施 イ 他校への授業見学等 イ 校外での研修への参加</p> <p>(3) 働き方改革の取り組み ア 校務の見直し及び効率化</p> <p>イ 働きやすい職場環境整備</p>	<p>(1) ア 運営委員会を中心に、情報共有が円滑に行えるミドルアップダウン型組織とし、ICT の活用を推進する。 イ ICT の活用などを通じて、データを蓄積、共有することにより、分掌・学年・教科等の情報を共有し、校務の効率化を図ると共に、校務を組織的かつ継続的に行う。</p> <p>(2) ア 教員の資質向上をめざした教員研修の実施、経験の少ない教員を中心とした勉強会の実施 イ 他校への授業見学や研修会等への積極的参加</p> <p>(3) ア 組織改編を含む個人での業務から組織での業務への返還を進め、効率化とともに継続性を担保し、職員の異動等があっても授業や業務がスムーズに行われるようにする。 イ 職場環境を整備すると共に、お互いがサポートできる職場をめざす。</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断(職員)の「校務に関する情報共有ができている」の肯定的回答(R01 59%)60%以上。その他、教職員の学校運営への参加の意識を高める。 イ 学校教育自己診断(職員)の「ICT 機器や校務処理システムの活用により校務の効率を図ることができた」の肯定的回答(H30 92%)90%以上を維持</p> <p>(2) ア 職員研修 10 回(R01 1 月末 12 回)以上を維持、勉強会 14 回(R01 1 月末 14 回)以上を維持、他校への授業見学を含めた研修会を 1 回(R012 回)以上。 イ 他校への視察を 2 回以上行い、校内での伝達を行う。</p> <p>(3) ア 教員の時間外勤務の月平均時間数(R01 37 時間、11 月末)36 時間以下 イ ストレスチェック結果における総合健康リスクを前年度より下回る。(R01 111)</p>
----------------------------	--	--	--